

第48回知的サロン

平成29年10月12日

宇陀市松山について

奈良県東部に位置し、平成18年大宇陀町、菟田野町、榛原町、室生村が合併して宇陀市となった。

平安時代以降、この地域は荘園として興福寺の支配下にあった。南北朝時代から戦国時代にかけては、伊勢国司北畠氏の勢力をしだいに受けるようになり、その後江戸時代には宇陀松山藩として織田氏4代の統治の後、幕府の直轄地となった。

大宇陀地区は飛鳥時代から阿騎野と呼ばれる宮廷の狩場であった。

大和と伊賀・伊勢を結ぶ東西の交通の要衝であり室町時代に始まり江戸時代に盛んになった庶民のお伊勢参りのルートにあたり、宿場町として繁栄した。

松山地区は戦国時代に「宇陀三将」と称された秋山氏の本拠地城下町として始まる。天正13年(1585)に秋山氏が追放された後、豊臣家配下の大名によって城の大改修と城下町の拡大整備が行われ、町名も阿貴町から松山町へと変わった。その後、松山町・神戸村・政始村・上竜門村と合併、旧大宇陀町となる。現在は宇陀市。

平成18年7月 松山地区は重要伝統的建造物群保存地区に指定された。現在、公開されているのは、まちづくりセンター「千軒舎」、町なみギャラリー「石景庵」、大宇陀歴史文化館「薬の館」である。そのほか、江戸中期に開園した森野旧薬園は民間の薬草園として最古のもの。(宇陀市ホームページ、宇陀観光協会ホームページによる) 記 松原宏治